



おおみや平和の会 学習会・総会を開催！

学習会の企画や情報発信をドンドンして欲しい



おおみや平和の会は、11月6日(月)、大宮コミュニティセンターにて総会を開催しました。総会は、前段に学習会として茨城県平和委員会事務局篠原睦氏による講演、その後、総会の構成にて開催しました。

■「日米安保と私たちの暮らし」1時間余の講演

学習会は、「日米安保と私たちの暮らし」と題し、1時間余の講演を行いました。最初に、「県民の声」として新聞掲載された『攻撃すれば報復「暴力」の悪循環』の内容ついて、現在のイスラム組織ハマスとイスラエル政府の状態・状況、82年前の旧日本軍が奇襲攻撃して成果を上げたが報復され敗北し大転換して日本国憲法が生まれ戦争放棄等を宣言、しかし昨年末、政府は「安保3文書」を改訂し長距離ミサイルを保持。先制すれば同様なことになりかねない。これを阻止するためには、日本国憲法の理念を実現する努力が必要であり尊いと思うことを述べられました。

■「全130カ所、米軍専用基地が81カ所 全土が基地化！」

併せて、準備されたレジメにおいては、日米安保条約は、「作られ、育てられ、強化されている」とし、在日米軍基地を拠点にして出撃できる日本にしていく(全土基地化)、自衛隊がアメリカの戦争に軍事力の行使も含めて加担していく体制を作るとしている。在日米軍基地について、「全国各地に130カ所、米軍専用基地は81カ所、と全土基

地化されている。沖縄は、国土面積の0.6%に70.6%の基地が集中している」と指摘され、「戦争できる国から戦争する国へと加速し、法律・物・人のあらゆるものが動員されようとしている」その1つとして戦争の人的基盤として自衛隊員の募集が強化されている。これらの状況を踏まえ戦争する国作りを許さず、憲法9条を生かした「平和維持」のために声を上げようと訴えられました。

■ニュースの定期的発行を希望する！

引き続き総会に移り、最初に、美和・緒川・御前山平和の会会長小室氏、新日本婦人の会常陸大宮支部(メッセージ)、茨城県平和委員会事務局篠原氏から連帯の挨拶を頂きました。

続いて、事務局から前総会以降の活動・会計報告、次期の活動・予算計画が報告され、意見・要望等が述べられました。数人の会員から同様な要望として、活動状況等をお知らせするニュースを定期的に発行してもらいたいとありました。「会費の徴収時に併せて手渡して対話できる」、「高齢化になりなかなか活動に参加できないことが多い。会の活動状況・会員等の状況も知りたい」等、切実な要望であり事務局として定期発行を目指すことを答えました。

また、活動計画について「大きなことでなくとも少人数で情報について忌憚なく質問できる学習会の企画があれば忙しい中でも参加しよう意識が高まるので企画・情報発信をして欲しい」と意見があり、事務局として対応していくこととしました。

最後に、次期役員を選出・承認・紹介して総会を終了しました。今回の総会開催に当たり、半日の時間でしたが有意義な総会でありました。

《おおみや平和の会会長 相沢 静男》

東海第二原発問題で6市村と懇談

防波堤工事不備への各自治体の追及は緩く、甘い

「原発いらない茨城アクション実行委員会」は、6市村に「東海第二発電所の再稼働問題に関わる6市村首長への質問及び要請書」を提出し、11月21日、東海村→日立市→常陸太田市→那珂市→ひたちなか市→水戸市を訪問し首長等と懇談しました。県平和委員会、いばらき原発県民投票の会、いばらき未来会議なども同行しました。

(注)6市村=「水戸市」「日立市」「ひたちなか市」「那珂市」「常陸太田市」「東海村」を言う。東海村は立地自治体、5市は隣接自治体である。再稼働に際しては、立地自治体の東海村と同様に、「事前同意」が求められる。

質問事項は「広域避難計画の策定へ向けての課題について」「放射能拡散シミュレーションについて」「防潮堤工事

の施工不良について」の3点、要請事項は「茨城県に対して、早期の住民説明会の開催」「実効性が未解決のままに、『広域避難計画を策定した』と発表しない」の2点です。とくに「防潮堤工事の施工不良」問題を取りあげました。

日本原電は、「施工不良」に関して10月16日記者会見（内部告発が明らかになる前に）をしていますが、その際「鋼製防護壁の北側の工事において、地中連続壁部が『高止まり』（設計深度に到達しない）のままコンクリート打設をおこなったことを公表」していません。

「高止まり」について、各自治体はいつ、どのような説明を受けたかを聞きました。東海村は9月20日ともっとも早く、その他は10月13日（日立・水戸）15日（常陸太田）17日（那珂・ひたちなか）と回答しています。常陸太田市は「施工不良の説明はあったが、『高止まり』については説明をうけていない」。水戸市は「岩盤に、さらに70cm入る予定だった」と、資料は示されず口頭で説明されたと述べています。つまり、70cm、岩盤に到達していない、ことが明らかに

なりました。各自治体への説明に一貫性がないことも分かりました。茨城新聞は、東海第二原発の周辺15市町村でつくる安全対策首長会議が10月20日に開催され、座長の高橋靖水戸市長が会議冒頭において、防潮堤の施工不良について「原子力安全協定に報告義務はないが、住民が不安に陥る。報告する姿勢を持ってほしい」と批判したと報道しています。

日本原電の隠蔽体質は悪質です。「防潮堤工事は津波対策のためにおこなっている」のです。このことを考えれば、日本原電に対する各自治体の追及がゆるく、甘いように感じました。日本原電は「工事終了は9月」という日程ありきで進んでいます。再稼働に反対する様々な住民運動を広げていく必要があります。



「2023年日本平和大会 in 鹿児島」参加報告

《篠原 睦 県平和委員会事務局長》

日本平和大会二日目の11月12日（日）、「知覧特攻平和会館訪問ツアー」に参加しました。7時45分、JR鹿児島駅西口に集合し2台のバスに分乗し出発。南薩縦貫道が開通しており、1時間余で南九州市（知覧町など3町が合併）に到着。車中、埼玉県から参加された鳥生正人元中学校社



会科教諭手作りテキスト「餓死、玉砕、特攻隊」を使った学習会がありました。1941年、陸軍大臣東条英機が発した戦場での心得「戦陣訓」によって、捕虜になるくらいなら自決せよ、と死を強要されたこと。また特攻機（人間爆弾）ばかりでなく水中特攻（人間魚雷）、小型特攻

ボートもあったことなども詳説。到着後、御年91歳になる赤崎盛彦さんによる「戦争・いのち・平和 - 特攻から平和を考える -」講話を知覧文化会館で拝聴しました。特攻作戦は1944年10月、海軍中将大西瀧治郎によって海軍首脳会議で提案され、「これによって必殺必死、という使命を若者たちは負うことになった」、それは「10死0生」ということだったと解説。朝鮮半島出身の特攻隊員もあり、知覧特攻平和会館に11人の名が記されているが、「日本に協力した『裏切り者』（親日派）として厳しい批判の対象になっている」ということを初めて

知りました。

知覧特攻平和会館には、特攻機、特攻攻撃によって戦死した隊員の写真、遺品や遺書、資料などが数多く展示されています。わたしと同じ名前の若者が二人いました。一人は東京出身、もう一人は長野出身でした。前途ある青年たちは、理不尽な作戦によって1,036人も命を失いました。しかし展示の概要は、国や父母を思う特攻隊員の心情を前面に出すようになっています。特攻精神を賛美しかねない危うさを感じました。

パンフレット「沖縄戦で陸軍の特攻機が出撃した飛行場」には、知覧の他鹿屋、健軍、大刀洗、新田原、喜界島、徳之島など11か所が示されています。台湾にも桃園、台中など6か所から出撃した飛行場名が記されていますが、このことも初めて学習しました。

鹿児島平和委員会のツアーバス担当の方は、帰路のバスの中で、平和会館の元館長が「反戦が目的ではない」と述べていたことを批判し、二度と戦争を起こさせないために「がんばりましょう」と発言しました。岸田文雄首相は靖国神社に真榊を奉納し、麻生太郎自民党副総裁は国民に「たたかう覚悟」を求めるなどプロパガンダにつとめています。「戦争準備」反対、政権交代を粘り強く訴えなければならないと思いました。

